

反対討論

2021年2月25日 今井まさこ

私は、日本共産党神戸市会議員団を代表して、予算第34号議案・令和2年度神戸市市場事業費補正予算、予算第42号議案・令和2年度神戸市港湾事業会計補正予算、第105号議案・指定管理者の指定の件・神戸市立垂水図書館ほか、第114号議案・須磨海浜水族園・国民宿舎須磨荘解体撤去他工事請負契約締結の件について、委員長報告に反対し、討論を行います。

予算第34号議案は、中央市場の再整備と称して、莫大な費用を使い海の埋め立をおこなう事業です。

中央市場の敷地をイオンモールに売却する際、冷蔵庫棟の設置など、最初から計画に組み込まれていなければなりません。緻密な計画を立てることなく、海を埋め立て、土地をつくるなど認められません。

予算第42号議案は、新港突堤西地区ヤード整備、高規格コンテナターミナルの整備推進、大阪湾岸道路西伸部の整備、空港島へのアクセス道路拡張など、コロナ禍の中、不要不急の大型開発に巨額の費用をつけるものであり、認めるわけにはいきません。コロナに苦しむ事業者、医療現場で頑張る関係者への支援などに、重点的に予算を投入すべきです。

第105号議案は、図書館の指定管理者の問題です。図書館は「生存権の文化的側面である学習権を保障する機関」です。管理運営を民間企業に「丸投げ」する指定管理者制度は、政府も認めたように図書館には適しません。5年あまりで事業者が入れ替われば、司書の専門性の蓄積、長期にわたるコレクション形成などが危うくなっています。よって、図書館は直営で、住民参加を大切にこそ、サービス向上ができます。

第 114 号議案は、須磨海浜水族園・国民宿舎須磨荘（シーパル須磨）について、22 億円かけて解体撤去を行うものです。今回の議案では、老朽化を理由にしますが、どちらの施設も 30 年程度しか経っていません。大規模改修をおこなえば、現施設の有効活用は可能です。また、議案では須磨水族園の本館部分は除かれており、本館部分を含めると全体の解体にはおよそ 30 億円近いコストがかかると質疑であきらかになりました。大規模修繕に切り替えれば 10 数億円で可能との試算結果もでており、解体費用の半額程度の少ない予算で、社会教育施設として存続できることは明らかです。

一方で、同じ教育施設である小中学校の校舎は、「神戸市学校施設長寿命化計画」で、「目標使用年数を平均約 90 年程度とする。」とされ、老朽校舎の建て替えを先送りしていることを考えると、矛盾があまりにも大きすぎるといわざるを得ません。

公園は本来市民の財産です。神戸市は公園の活性化や時代のニーズを理由に、パーク PFI による再整備を進めるとしています。しかし、このスキームでは、公園一帯を特定の企業グループに占有させ収益を上げさせるだけであり、多くの部分は市民の利益に還元されないのは極めて問題です。

須磨水族園と国民宿舎は解体ではなく修繕し有効活用することを強く求めます。

以上、反対の理由をのべ、議員各位のご賛同をお願いし討論とします。